

■伊藤若冲 画家。江戸中期京都画壇を代表し、写生でありながら装飾という独自の画風を確立した。

いとうじゃくちゆう

徳川吉宗將軍1716＝ 京都高倉錦小路で、青物問屋三代目伊藤源左衛門の長男に生れる。

・・・・・・ 1725＝ 9歳：

享保大飢饉・1732＝16歳：

・・・・・・ 1734＝18歳：

・・・・・・ 1738＝22歳：父が死去し、家督を相続して四代目源左衛門となるが、
生来無趣味・無芸で世間に対応できず、家業から逃れるべく、

・・・・・・ 1743＝27歳：この頃、狩野春卜の弟子となって本格的に絵画に始めると、オタク的に打込むようになり、

徳川吉宗隠居1745＝29歳：

この間、20下の木村兼葎堂と同門となり、親交が始まったと考えられる。

やがて、狩野派の粉本主義に不満をもち、宋・元画に直接近づくも、やがて疑問を持つようになって、独自の世界を開きはじめる。

徳川吉宗没・1751＝35歳：伊藤家の菩提寺宝蔵寺に父母の墓を建立。

・・・・・・ 1752＝36歳：この頃、木村兼葎堂の縁か相国寺の禪僧大典頭常の知遇を得、若冲の号を与えられる。生涯のパトロンともいべき師に出会って、意を決したのか、

自然真管道・1755＝39歳：*家業を弟に譲り、茂左衛門と改名して、画業に専念し始めるや、一気に開花。
「月夜白梅図」「旭日鳳凰図」「猛虎図」、

宝暦事件・・ 1758＝42歳：「梅花小禽図」、**「動植綵絵」の連作に着手。**

大式政治批判1759＝43歳：「雪中鴛鴦図」「秋塘群雀図」「向日葵雄鶏図」「大鶏雌雄図」「紫陽花双鶏図」、**「動植綵絵」の制作が佳境に入る。**
水墨画の代表作「鹿苑寺大書院障壁画」を制作。

大岡忠光没・1760＝44歳：「水墨花鳥蔬菜図押絵貼屏風」「老松孔雀図」「芙蓉双鶏図」「老松白鷄図」「芍薬群蝶図」「梅花皓月図」「老松鸚鵡図」、**「動植綵絵」に感銘した売茶翁(高遊外)から一行書を贈られる。**

・・・・・・ 1761＝45歳：「動植綵絵」「芦鷺図」「寒山拾得図」。この年、木村兼葎堂の資金で大典が処女詩集を上梓。

・・・・・・ 1763＝47歳：「売茶翁像口絵」、

加賀千代句集1764＝48歳：金刀比羅宮奥書院に「花卉図」「山水図」「蕪子花図」「垂柳図」を描く。

蘭銭初輸入・1765＝49歳：跡取りとして期待をかけた弟が死去。積迦三尊像3幅対と**「動植綵絵」24幅を相国寺に寄進。**

忠臣蔵大当り1766＝50歳：***これらの絵が相国寺の中の間に飾られる。「動植綵絵」30幅を完成し、生前墓を建立。**

明和事件・・ 1767＝51歳：大典に従い大坂に赴き(兼葎堂宅に同宿か)、帰洛後、傑作**「乗興舟」**を描く。

久留米藩工事1768＝52歳：「玄圃瑤華」「素絢帖」刊行。この年の**「平安人物志」**で応挙に次ぎ三番目。

・・・・・・ 1770＝54歳：

御蔭参流行・1771＝55歳：「着色花鳥版画」、

田沼意次老中1772＝56歳：

黄表紙始・・ 1775＝59歳：この年の**「平安人物志」**で応挙に次ぎ二番目。

雨月物語刊・1776＝60歳：***還暦を迎え、深草の黄檗宗の石峰寺に五百羅漢他の石像群を布置するという大構想の実行に着手。**

源内獄中死・1779＝63歳：母が死去。

天明大飢饉始1782＝66歳：この年の**「平安人物志」**でも変わらず、

田沼意次失脚1786＝70歳：

寛政改革始・1787＝71歳：妙法院真仁親王の注文により襖絵を描く。

・・・・・・ 1788＝72歳：**天明の大火によって旧宅および家作が焼失して窮乏。木村兼葎堂を訪ねる。**

異学の禁・・ 1790＝74歳：大病を得る。「仙人掌群鶏図・蓮池図襖絵」、

混浴禁止・・ 1791＝75歳：**窮乏変わらず、相国寺との永代供養の契約を解除。この頃深草の石峰寺の傍らに隠棲。**

松平定信引退1793＝77歳：

写楽・・ 1795＝79歳：「菊図押絵貼屏風」、

ポルト来航・1796＝80歳：東山新書画展に「五百羅漢図」出品。「蔬菜図屏風」「蒲庵浄英像」「三十六歌仙図押絵貼屏風」、

昌平饗始・・ 1797＝81歳：

伊能測量始・1800＝84歳：「伏見人形図」「岩頭猛鷲図」「月梅図」と、***傑作を描き続け、生涯妻子を持たず、没した。**

辻惟雄「奇想の系譜」、京都国立博物館「伊藤若冲大全」、**「没年日本史人物事典」**、平凡社百科事典、新潮日本美術文庫、